

復元力を組み込んだ広域ネットワークの再設計

Redesign of Resilient Regional Network

CITY POPULATION



■東日本大震災を受けて

横（東西方向）へのつながりをより強く

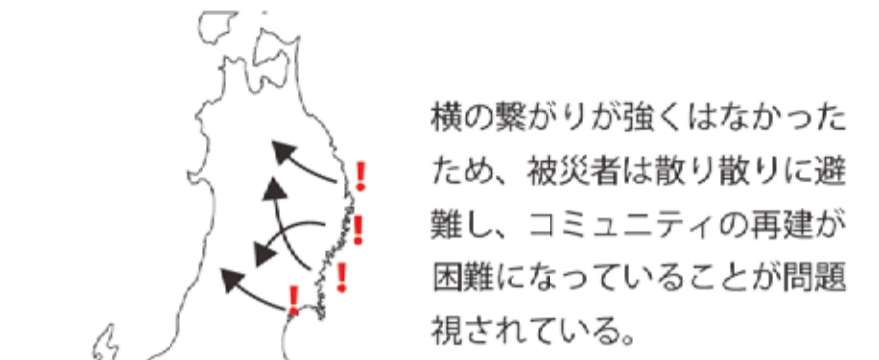
3月11日に発生した東日本大震災により浮き彫りになった、大きな東北の課題の一つとして挙げられるのは、横の繋がりである。この横の繋がりをより明確にし、自律分散型のネットワークを再構築することが私たちの提案である。



・ハブになる都市が明確にならなかった



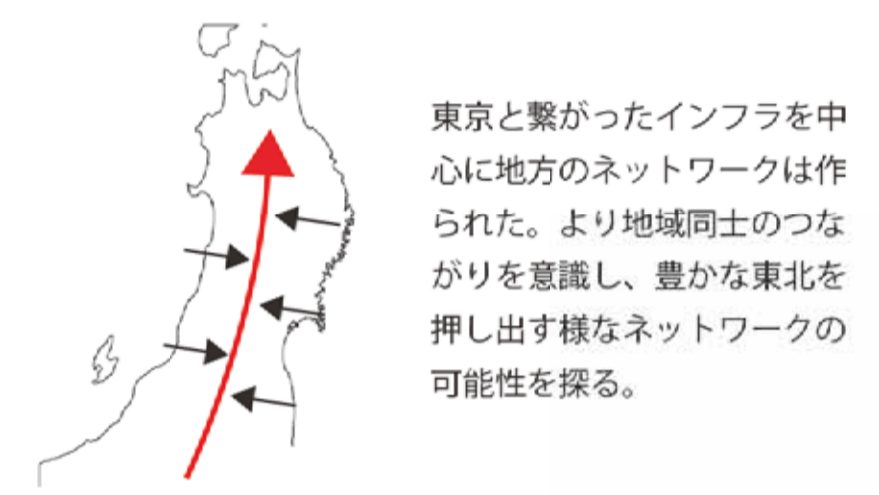
・飛散した被災者



・横のつながりがあることで届いた物資



・東京から延ばされたインフラを中心に作られた地方のネットワーク



■自律分散型ネットワークの可能性

・避難者の円滑な移動

あらかじめ地域間の連携を図っておくことで、コミュニティ単位を崩さずに避難することができる。



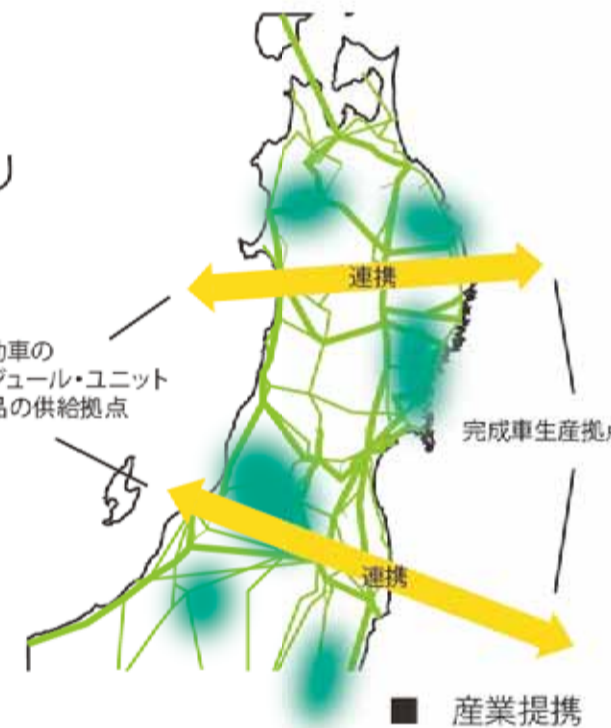
・スムーズな物資の供給

冗長性のあるネットワークは被災時に生きてくる。また、ノードとなる都市が明確になる。



・地域同士の強いつながり

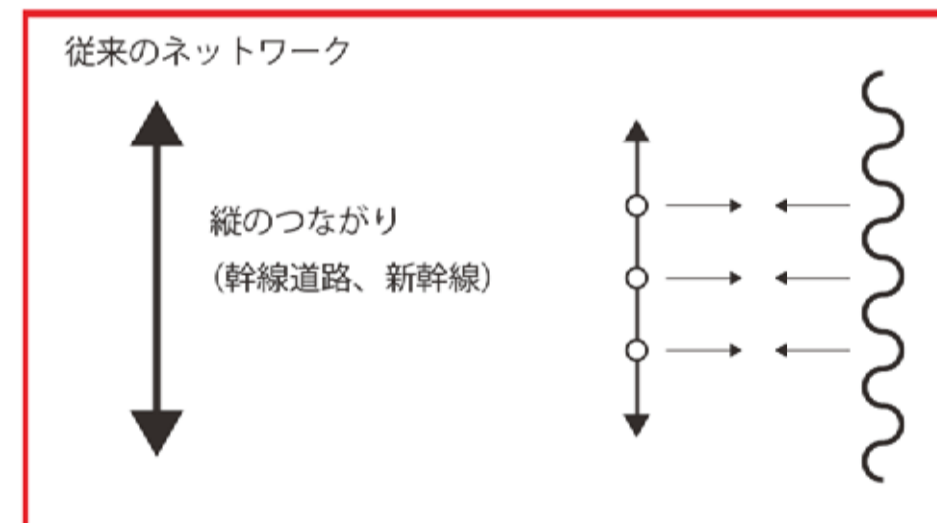
行政区域にとらわれない合理的な地域圏が作れる。また、土地のキャラクターをより強く押し出すことの出るまちづくりがし易くなる。



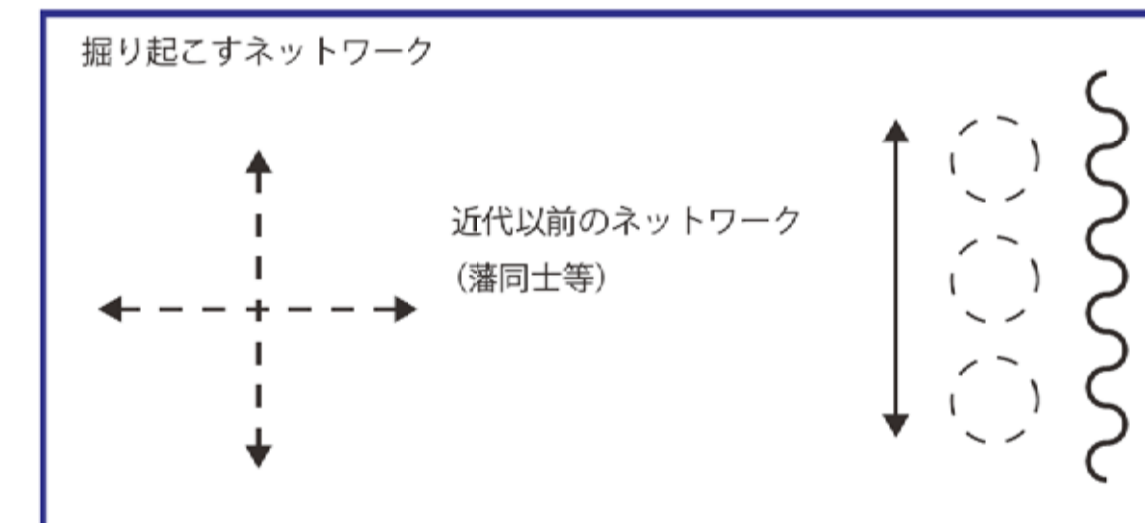
■グランドデザインの構成手法

冗長性のあるネットワーク

<手法 1-1>



<手法 1-2>



重ね合わせ

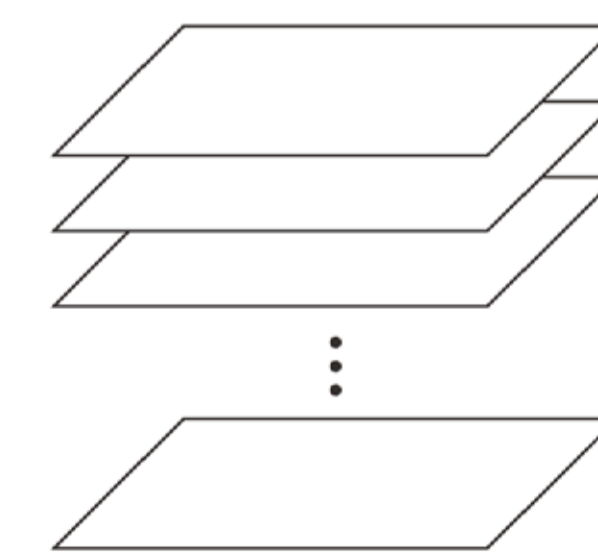


地形、文化からみた圏域の作成

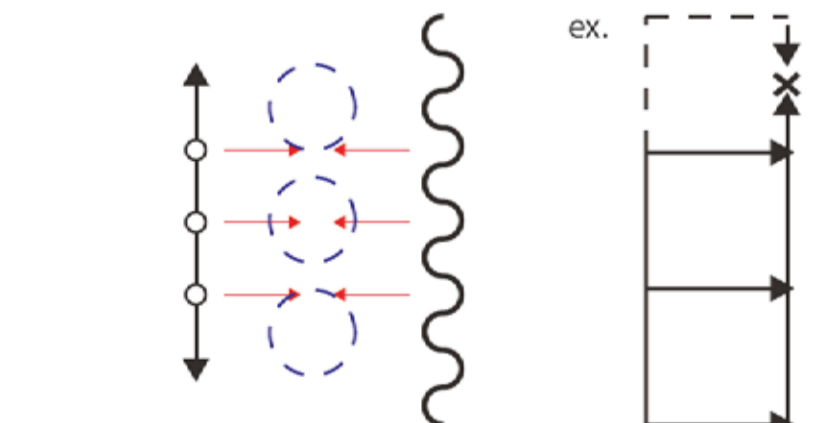
<手法 2>

- 近世以前の文化圏の再考
- 流域圏の把握
- 行政界の取払い
- 自然の空間域→景域を考える

様々なレイヤーを重ねて圏域を再考



- 地形・流域圏
- 通勤・通学圏
- 藩
- 物流



○ロジスティックネットワークから広域のネットワーク作り
○どこかが切れてもどこかで補うことができるネットワーク